

# 小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室における 自立活動に関する研究（2年次／2年）

— 「小・中学校特別支援学級・通級指導教室における  
自立活動Q&Aハンドブック」の作成—

大分県教育センター特別支援教育部  
指導主事 財津 誠一

## I 調査研究の背景と目的

大分県における小・中・義務教育学校の特別支援学級数、在籍児童生徒数は、近年急増し、令和6年度は令和元年度と比較し、学級数が約1.4倍、児童生徒数は1.8倍となっている（表1）。一方、通級による指導は、令和6年度と令和元年度を比べると、教室数は微増、児童生徒数は微減であるが（表2）、令和7年2月に示された大分県長期教育計画（案）では、通級による指導を受ける児童生徒数を令和15年度に643人と、今後増加させる目標値が設定されている。特別支援学級や通級による指導は、障がいのある児童生徒の多様な学びの場として、指導の一層の充実が求められている。

一方、本センターにおける令和4年度の「通級指導教室における指導の実態と課題に関するアンケート調査」と令和5年度の「小・中学校特別支援学級の自立活動に関する実態調査」（以下、令和4・5年度実態調査とする）によると、特別支援学級担任や通級指導教室担当者は、担当経験年数3年未満が大半を占め（図1・図2）、専門性の向上が課題と言える。また、通級指導教室においては、通級指導教室の種別に関わらず多様な障がい種の児童生徒が通い、授業形態は個別の指導に加えて、グループ別や合同でも行っていた。特別支援学級においても、特別支援学級の種別に関わらず、他の障がいもある児童生徒が在籍し、児童生徒数は平均4.3人であり、6人以上の学級が29.7%であった。特別支援学級担任及び通級指導教室担当は、様々な障がいに関する知識や多人数を同時に指導する高い専門性が必要であることが明らかになった。更に、特別支援学級における自立活動の指導の課題や困難については、「児童生徒が複数いる時の指導」、「教材の設定や授業の展開など授業を構想すること」、「目標や具体的な指

表1 大分県の特別支援学級の学級数及び児童生徒数

		令和元年	令和6年
小・中 学校等	学級数(学級)	584	826
	児童生徒数(人)	2,358	4,332

表2 大分県の通級による指導の教室数及び児童生徒数

		令和元年	令和6年
小・中 学校等	教室数(教室)	45	51
	児童生徒数(人)	491	475

特別支援教育課調べ

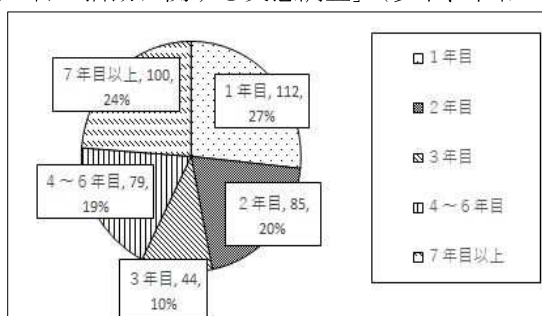


図1 特別支援学級担任の経験年数 (n=420)

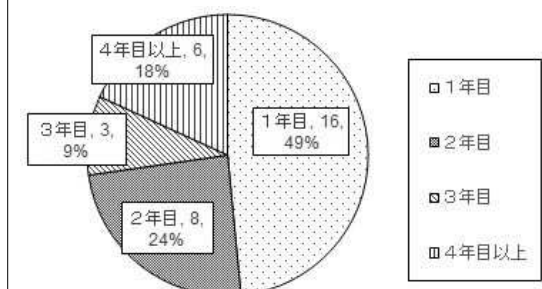


図2 通級指導教室担当の経験年数 (n=33)

## 大分県教育センター特別支援教育部

導内容の設定」等、種々挙げられ、在籍児童生徒数が多い場合はそれらに加え、「実態把握」や「教育活動全体を通じた指導」、「相談相手がいない」等、多方面に課題や困難を感じていた。

特別支援学級、通級指導教室のいずれにおいても学校教育法施行規則第 138 条、第 140 条により特別の教育課程が編成され、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領により自立活動の指導が規定される等、児童生徒一人一人の障がいの状態に応じた指導を行う必要がある。

そこで、本研究では、特別支援学級担任や通級指導教室担当になって 1～3 年目の教員を主な対象として、令和 4・5 年度実態調査で明らかになった担任・担当者の疑問や悩み、課題、困難を基に、自立活動を指導する上での基礎的、基本的な内容で構成した Q & A 形式のハンドブック（以下、Q & A ハンドブックとする）を作成することを目的とする。

## II 調査研究の方法

### 1 Q & A ハンドブックの作成手順

手順	期間	内容
1 Q（疑問） の作成	5 月 ～ 7 月	① 令和 4・5 年度実態調査から特別支援学級担任や通級指導教室担当の自立活動に関する疑問や悩み、課題、困難を集約し、Q を作成する。 ② Q の具体的な内容を、令和 4・5 年度実態調査の自由記述や教育センター実施の特別支援教育関係の研修受講者の発言等から、ピックアップする。 ③ 大分大学の古長治基準教授より、作成した Q やその具体的な内容について、指導助言を受け、修正する。
2 A（回答） の作成	8 月 ～ 11 月	① Q に対する A を、学習指導要領や文献、専門雑誌等を参考に作成する。 ② 作成した Q & A を順次ホームページで試案（以下、Q & A 【試案】とする）として公開し、特別支援学級担任や通級指導教室担当者に提供する。（9 月 27 日より公開） ③ Q & A 【試案】をホームページに公開したことの周知とアンケート（所属・役に立った Q & A ・感想や改善案を記入する、Google フォームで作成）の依頼を、令和 6 年度特別支援学級担当教員研修及び通級指導教室担当教員研修の受講者（125 名）及び令和 4・5 年度実態調査の回答者（442 名）に行う。 ④ Q & A 【試案】に対する感想や改善案を、Google フォームや特別支援教育関連の研修の中で収集する。
3 Q & A 全体 の見直し、 修正	11 月 ～ 12 月	① Q & A を一通り作成した後、改めて全体を見直すと共に、収集した感想や改善案を参考に、新たに Q を追加したり、A の内容を修正したりする。 ② 大分大学の古長治基準教授より、修正した Q & A について、指導助言を受け、更に修正する。

## III 調査研究の結果

### 1 Q（疑問）の作成

令和 4・5 年度実態調査から特別支援学級担任や通級指導教室担当の自立活動に関する疑問や悩み、課題、困難を集約し、Q を作成した。以下に、その例を示す。

## 小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室における自立活動に関する研究

## ○例 1

## 【令和 4・5 年度実態調査の自由記述】

- ・個々の課題や困難さを把握することはできるものの、それをどのように指導するのか判然としません。
- ・1時間の授業の中をどう組み立てるのか、自信がありません。
- ・指導の具体例がたくさんあると参考にしやすいです。具体的な実践例が知りたいです。 等



【作成した Q (疑問)】個々の課題や困難を把握できても、どのように指導するのか、授業をどう組み立てるのか分かりません。

## ○例 2

## 【令和 4・5 年度実態調査の自由記述】

- ・複数人児童がいる時、指導内容が異なる場合、個人別の指導に陥りがちになってしまいます。
- ・個々にあった自立活動をしたいが、複数人いるとどうしても一斉の指導になり、それが実態と合っているのか分からず困っています。
- ・複数生徒がいる時、一人で指導すると、個別指導ができません。 等



【作成した Q (疑問)】児童生徒が複数いる時、どのように指導するのか難しいです。異学年で、発達段階も違う、障がい名も様々です。

## 2 Q &amp; A 【試案】のホームページでの公開と収集した感想

## 2-1 ホームページのアクセス数

9月27日にQ1～Q5を公開し、以降10月下旬にかけてQ29まで順次公開した。Q & A 【試案】のホームページへのアクセス数を表3に示した。10月には284件のアクセスを記録するなど、多くのアクセスをいただいた。

表 3 ホームページのアクセス数

月	アクセス数
10月	284
11月	148
12月	193

大分県企画振興部広報広聴課公聴資料より

## 2-2 収集した感想

20名よりアンケートに回答があった。概ね肯定的な感想が多く、以下のようなものが寄せられた。ICTを活用した実践や教育課程上の授業時数の位置づけ等について要望があったため、Q & Aハンドブックの加筆修正を行った。

## [Q &amp; A 【試案】のアンケートの感想 (一部抜粋)]

- ・子どもが、できること、もう少しできそうなこと、援助があればできること、できないことに分けて整理して何を指導するか決めようと思いました。漫画もあって分かりやすかったです。
- ・特別支援学級を担当して、数年経ちますが、まだまだ自立活動については、「これで良いのかな？」と日々感じながら、悩みながらやっているので、このようなQ & Aハンドブックは、大変ありがたいです。特に、どのページにおいても、Qとして挙げられている困りが具体的に挙げられており、共感できるものばかりでした。それに対してのAも詳しく書かれていたので、初めて担当する方も、私のように数年担当している方も、困りや疑問点を解決するのに、とても役立つハンドブックになると思いました。
- ・とても分かりやすいものでした。仕事で悩んだ際に、何度も読み直したいと思いました。ありがとうございました。
- ・日頃からどうしたらよいか悩んでいる内容を、とても分かりやすく解説されていてありがたいです。
- ・ICTを活用した特別支援教育や感情スキルコントロールの実践等 (をもっと知りたい)。
- ・自立活動のQ & Aが大変参考になりました。前回の研修で勉強させていただいた自立活動の教育課程の位置付けの例が表としてあると分かりやすいと思いました。 等

大分県教育センター特別支援教育部

3 作成したQ&Aハンドブックの特徴

作成した「特別支援学級・通級指導教室 自立活動Q&Aハンドブック」を別紙に示した。このQ&Aハンドブックの特徴として、以下の①～⑥が挙げられる。

- ① 対象は、小・中学校の特別支援学級や通級指導教室を担任・担当して1～3年目の教員を想定。
- ② 内容は基礎的、基本的なものとし、短時間でも読めるように簡潔に記述。
- ③ 読みやすいように、表紙ページから両面印刷すると、Q&Aを見開きで読むことができる。

④ Q (疑問) は、令和4・5年度実態調査の回答や特別支援教育関係の研修の受講者の生の声を基に作成。

⑤ A (回答) は、「1文にまとめたもの」と、「解説」、「まとめや補足」の3つで構成。回答の核心を「1文にまとめたもの」で表わし、「解説」は簡潔に、さらに要点を赤字で表記。

Q1 自立活動とは何ですか。

特別支援学級や通級指導教室では、自立活動の指導をしないといけないですよね……

特別支援学級担任

教科書がないし、具体的な指導のイメージがわかりにくい……

通級指導教室担当

自立活動がなんたるかもよく分からないままスタートし、混乱しています。

特別支援学級担任

1文にまとめたもの  
A 個々の障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導です。

解説  
自立活動の目標は、「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う」と特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示されています。

特別支援学級では「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を促すため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること」、通級による指導では「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うもの」と、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領で規定されています。

自立活動の時間における指導はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとされており、障がいのある児童生徒にとって、各教科、特別の教科道徳、特別活動等と並ぶ、重要な指導の一つとなっています。

障がいのある児童生徒の発達段階や障がいの状態、特性は一人一人異なり、学習上又は生活上の困難の内容や程度もそれぞれです。よって、自立活動は、一人一人の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成して指導します。また、自立活動の指導は、個別指導の形態で行われることが多く、最初から集団で指導することを前提としたものではありません。

まとめや補足  
どのような授業なのか、まず、イメージしてみましょ。自立活動の実践事例が、大分県教育センターのホームページ上にありますので、ご覧ください。

大分県教育センター  
「特別支援教育 実践事例」

- 5 -
⇒目次へ
- 6 -
⇒目次へ

- ⑥ タブレット端末やパソコン等にダウンロードして閲覧する場合、インターネットに接続された環境であれば、タップやクリックで該当ページやサイトに飛ぶことができるように、文字にリンクを張った。

IV 成果と課題

Q&Aハンドブックの作成を通して、自立活動における流れ図を参考にした目標・内容の設定、授業の構想、評価、教職員や保護者の連携等に関して、基本的な考え方や具体的な手順等を整理するこ

## 小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室における自立活動に関する研究

とができた。また、試案としてホームページに公開したことで、いち早く特別支援学級担任や通級指導教室担当に情報を提供し、好評を博すことができた。また、寄せられたアンケートの感想等を基に、ブラッシュアップしたQ&Aハンドブックにすることができた。

課題としては、本センターの研修でQ&Aハンドブックを活用すること、また、学習指導要領の改訂や法令の改正、時代の変化等に合わせ内容を適宜修正していくことである。そして、特別支援学級担任や通級指導教室担当の自立活動に関する専門性が向上し、自立活動が適切かつ効果的に指導されていくことを願っている。

### V 引用・参考文献

- 文部科学省 2018 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)
- 文部科学省 2024 特別支援教育No.95 令和6年秋
- 青森県総合学校教育センター特別支援教育課 2022 時々サクッと読み返したくなる！特別支援学級・通級指導教室の授業づくりに役立つQ&A
- 島根県教育センター 2021 自立活動ってなんだろう？
- 岡山県総合教育センター 2019 自立活動ハンドブックー知的障害のある児童生徒の指導のためにーVer.2
- 愛媛県総合教育センター特別支援教育室 2019 特別支援学級における自立活動ガイドブック
- 沖縄県総合教育センター特別支援教育班 2022 自立活動ハンドブック
- 菊地一文 2022 確かな力が育つ知的障害教育「自立活動」Q&A 東洋館出版社
- 大分県教育センター 2023 小・中学校通級指導教室における指導の実態と課題に関する調査研究
- 大分県教育センター 2024 小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室における自立活動に関する研究(1年次/2年)ー特別支援学級の自立活動に関する実態調査及び好事例の集積ー